

2026年度 C日程

文学部 日本語日本文学科

現代の国語、言語文化

〈近代以降の文章・古典（古文・漢文）〉

注 意

1. 開始の指示があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. 机上には、受験票、黒鉛筆、消しゴム、時計以外のものを置かないでください。
3. 受験票と机の上に貼ってある受験番号が同じかどうか確認し、問題冊子と解答用紙のすべてに受験番号と氏名を記入してください。
4. 解答は、すべて解答用紙に記入してください。
5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせてください。
6. 不正行為について
 - ① 不正行為に対しては厳正に対処します。
 - ② 不正行為に見えるような行動が見受けられた場合は、監督者が注意をします。
 - ③ 不正行為を行った場合は、直ちに受験を取りやめさせます。
7. 試験終了後、この問題冊子を持ち帰ってください。

受 験 番 号	氏 名

一 次の記事は1925（大正14）年に「一」と「二」の二回に分けて

発表された久米正雄による文芸講座「私小説と「心境」小説」からの抜粋である。これを読んで後の設問に答えなさい。

一

この頃文壇の一部において、心境小説というものが唱道され、またそれに対して、あくまで本格小説を主張する人々があつて、両々相譲らないと共に、それに付随して、私小説というものと、三人称小説との是非が、しばしば論議された。

心境小説というのは、実はかくいう私が、仮に命名したところのもので、その深い趣意については、いづれ章を改めて述べるが、ただここに一言でいえば、作者が対象を描写する際に、その対象を如実に浮かばせるよりも、いや、如実に浮かばせてもいいが、それと共に、平易にいえばその時の「心持ち」むずかしくいえばそれを眺むる人生觀的感想を、主として表わそうとした小説である。心境というのは、実は私が俳句を作っていた時分、俳人の間で使われた言葉で、作を成す際の心的境地、という程の意味に当たるであろう。

それに対して、本格小説の大旗を、真つ向に振り翳しているのは、中村武羅夫君^{注2}なぞで、「本格」小説なぞといひ出したのも、氏の命名なのであるが、つまり本当の格式を保った、いわゆる小説らしい小説、という程の意味であろう。私小説と、三人称小説、この二つのものは是非も、それに付随して起こつた事であつて、これも昨今の文壇に、著しく私小説の傾向が増え、それを支持する私のようなものが出て来たので、改めて一部の問

題となつたものである。

まず、論議を進めるのに都合がいいから、この、「私小説」の主張から始めよう。第一に、私はかの「私小説」なるものをもって、文学の、——といつて余り広範過ぎるならば、散文芸術の、真の意味での根本であり、本道であり、真髓であると思う。というのは、私が文筆生活をする事ほとんど十年、まだ文学の悟道に達するには至らないが、今日までに築き上げた感想をもつてすれば、自分は自分の「私小説」を書いた場合に、一番安心立命をその作によつて感ずる事が出来、他人が他人の「私小説」を書いた場合に、その真偽の判定はもちろん最初に加うるとして、それが真物であつた場合、最も直接に、信頼を置いて読み得るからである。

以下、その気持ちをも、もう少し詳しく述べてみよう。それには、ここに私がいわゆる「私小説」というのは、かの十九世紀に、独逸^{ドイツ}において提唱された、イヒ・ロマン（Ich-Roman）と異なる点をも、説明しておかなければならない。この独逸語のイヒ・ロマン、直訳して私小説なるものは、私は浅学にして深い定義は知らないが、ただ、要するにそれは形式の問題であつて、小説の主人公を、「^{イヒ}私」^{イヒ}すなわち「私は」として、書き出したものを、ことごとくイヒ・ロマンと称したものである。だから、その場合、イヒすなわち「私」なるものは、決して作者自身でなくとも、帝王でも乞食^{こじき}でも、鍛冶屋でも探偵でも、美妓^{びぎ}でも魔女でも、ないしは猫でも甲虫^{かぶむし}でも、松の木でも水でも、何でもいいのである。——少なくとも、独逸の語義の場合では、主人公が人間で、私はこうした、ああしたという風に、描写された小説全部をいつたものである。

が、私が、昨今いう所の「私小説」というのは、必ずしもそうではない。

それはイヒ・ロマーンの訳でなくて、むしろ、別な、「自叙」小説ともいうべきものである。一言にしていえば、作家が自分を、最も直接にさらけ出した小説、という程の意味である。しからば、「自叙伝」とか、「告白」とかと同じか、というと、それはそうではない。それはあくまで、小説でなければならぬ。芸術でなければならぬ。この微妙な一線こそ、後に説く心境問題と相俟^{あいま}って、いわゆる芸術非芸術の境を成すものであるが、単なる自叙伝、ないし告白のための告白は、最も私の「私小説」に近い、原型に似たものではあるが、その表現が芸術でない以上、私の「私小説」には入らないのである。

^{注4} 夏目漱石先生に、「吾輩は猫である」という、私のこの論講を行うのに、都合のいい小説がある。「吾輩は猫である」は、先刻いったイヒ・ロマーンの定義からいえば、明らかに吾輩は……という書き出しから、イヒ・ロマンであり、猫の飼い主^{くしや}苦沙弥先生という人物は、ほとんど漱石先生自身を代表しているから、私のいう意味でも、「私小説」でありそうだが、私は私のいわゆる「私小説」の中へは、それを入れたくないのである。——何故か？ それは結局主人公たる作者が、「直接に」出ていないからである。私をしていわしむれば、先生の低^{ひが}徊趣味が、この絶好の「私小説」を、ひとひねりひねっているからである。このひねりようは、「猫」の場合成功して、それが芸術のように見えているが、私をしていわしむれば、それは芸術の皮であり、むしろ額縁である。「猫」は今日確かに日本近世小説の、立派な古典ではあるが、^Bもっと直接に、漱石先生自身が出て来ても、あれだけの苦笑哲学は出て来なかったであろうか。「猫」は確かに役立っているが、それは一種通俗的な、面白さを増し、先生の技巧欲

を満足させたに止ま^{とど}まっているのではなからうか。

「他」を描いて、あくまで「自」をその中に行きわたらせる。——そういう偉い作家も、あるいは古今東西の一二の天才には、あるであろう。が、それとて他人に仮託したその瞬間に、私は何だか芸術として、一種の間接感が伴い、技巧というか凝り方^{かた}というか、一種の都合のいい虚構感が伴って、読み物としてはまさっても、結局信用が置けない。そういう意味から、私はこの頃ある講演会で、こういう暴言をすら吐いた。^{注6} トルストイの「戦争と平和」も、^{注7} ドストエフスキーの「罪と罰」も^{注8} フローベールの「ボヴァリー夫人」も、高級は高級だが、結局、偉大なる通俗小説に過ぎないと。結局、作り物であり、読み物であると。

結局、すべて芸術の基礎は、「私」にある。それならば、その私を、他の仮託なしに、素直に表現したものが、すなわち散文芸術においては「私小説」が、明らかに芸術の本道であり、基礎であり、真髄であらねばならない。それに他をかりするという事は、結局、芸術を通俗ならしむる一手段であり、方法に過ぎない。だから、「私小説」を除いたほかのものは、すべて通俗小説である。さて、そうなつて来ると、その「私」の問題だが、これについても私は私の一説を持つ。が、次の講に譲^Cって、漸次「私」から、私を語る「心境」へと、論を進めて行こう。

二

私は「私小説」をもつて、文芸の最も根本^{もと}的な、基礎^{きそ}的な形式であると信ずる。そして根本的であり、基礎的であるが故に、最も素直で、最も直接で、自他共に信賴すべきこの形式を措^おいて、何故に、他に形式を求めなければならぬ必要があるのか、といったまでなのである。というと難者は

直ちにいう。ツマラない人の生活を、いかに素直に、直接に記録したとて、要するにツマラないではないか。と。

その非難には、確かに一理はある。一理あればこそ、「私小説」の「私」が問題となつて、この講を次ぐのであるが、また、しかしその非難ですら、私はこう答える事によつて、まず一蹴したい。曰く。ツマラない人の生活ないし想像を、いかに絢爛に、いかにまた複雑に持つて回つて、いわゆる本格小説的に製作したとて結局ツマラないではないかと。そしてその二者のツマラなさでは前者のツマラなさの方が、むしろ罪が少なくはないかと。——これは逆説だが、どっちにしても問題として残るものは、この「私」である。

菊池寛の先頃の感想に、「作家凡庸主義」というものがあつた。主旨は、要するに、どんな凡庸な人でも、作家であり得る。という事だつた。すなわち、どんな凡庸な人でも、その平凡な生活は平凡ながらに、如実に表現し得さえすれば、一人前の作家であり得る。作家は、何も強いて天才英雄を要しない。というような事だつた。私はそれに、半ば賛成だつた。今でも「私小説」の立場から、それには大半賛成である。

私は、「凡ゆる存在は尤もである」という意見を、動かし難く信ずるものである。そして人いやしくも、平凡というレベルまで達している限り、それぞれの存在には、まことにそれぞれの理由があつて、それが全く至極尤もであり、自然であるものである。そしてそれは、ただ如実に表現されれば、正に文芸としての価値を生ずるに違ひないものである。

人の生活というものは、全然、酔生夢死であつてすらも、それが如実に表現されれば、価値を生ずる。かつて地上にあつたどの人の存在でも、そ

れが如実に再現してある限り、将来の人類の生活のために、役立たずにはいない。芸術を、消閑娯楽の具とするのみに止まつて、この地上に存在した一人の生存の、愛しき足跡と見ないものは仕方もないが、いやしくもそれを人間生活史の一部として見る時、各自はいずれもその各々の一頁を、要求し得る権利を持つものである。

ただし、ここに問題となるのは、「それを如実に表現し得れば、」という条件である。この「如実に表現し得れば」は、真にいい易くして、実は容易ではない。この表現の問題については、古今東西、いやしくも文芸の道にたずさわる徒の間に、いい古されて、しかも今なお終わらぬ問題であるから、ここで事新しく論ずる余裕はないが、「作家凡庸主義」なるものは、凡人でもという所に論拠を置けば成り立つが、それを如実に表現すればの点に至つて、瓦解する。

私の「私小説」の主張も、ややそれと同じ。すなわち私は、「私小説」の本体たる「私」が、いかにツマラヌ、平凡な人間であつても、いいと極言したい。そして問題とすべきは、ただその「私」なるものが、果たして如実に表現されているか否か、にかかる。本ものの「私」か、偽ものの「私」か、にかかる。そして本ものの「私」なら、その「私」が表現したい意欲を感じた限り、きつと一個の存在価値を持つ事を信ずる。

だから、私はここに繰り返している。凡ゆる人は、みんな「私小説」の材料を持つてゐる。そして、誰でもが、表現力において恵まれているならば、一つ一つ私小説を書き残して、死んで行くのが本当なのだ。が、その中で、自己の中なる「私」を真に認識し、それを再び文字をもつて如実に表現し得るもののみが、芸術家と仮に称せられて、私小説の堆積を残して

行くのである。

その「如実に」とは、しかし決して写実的な意味で、そのままの形で、との謂ではない。歪みなく、過不及なき形ではあるが、素材のままで、との謂ではない。そこには必ず一つの、あるコンデンサーを要する。^{注10}「私」をコンデンスし、——融和し、濾過し、集中し、攪拌し、そして渾然と再生せしめて、しかも誤りなき心境を要する。これが私の第二段の「心境小説」の主張である。

ここにおいて、^F真の意味の「私小説」は、同時に「心境小説」でなければならぬ。この心境が加わる事によって、実に「私小説」は「告白」や「懺悔」と微妙な界線画して、芸術の花冠を受くるものであって、これなき「私小説」は、それこそ一時文壇で称呼された如く、人生の紙屑小説、^{めかみそ}趣味噺小説、ないしは単なる恠気、愚痴、管、に過ぎないであろう。

しからば心境とはいかなるものであるか。

^aこれを細説する事

こそ、本講の目的であつたのだが、私の懈怠^{けたい}

^b最終冊に及んで、

^c許されたる紙数に満たんとしてゐる今、^d簡単に一言して、^e尻切れ蜻蛉ながら、末尾を結ぼう。

心境とは、これを最も俗に解り易くいえば、一個の「腰の据わり」である。それは人生観上から来ても、芸術観上から来ても、ないしは昨今のプロレタリア文学の主張の如き、社会観から来てもいい。が、要するに立脚地の確実さである。そこからなら、どこをどう見ようと、常に間違いなく自分であり得る。(ここが大切だ)。心の据えようである。

(久米正雄「私小説と「心境」小説」による)

注1 久米正雄——1891生→1952没。小説家・劇作家。

注2 大旗——中国で天子や將軍が用いた大きな旗。

注3 中村武羅夫——1886生→1949没。小説家・評論家。「本格小説と心境小説と」の中で心境小説を批判した。

注4 夏目漱石——1867生→1916没。小説家・英文学者。滑稽な人間社会を風刺した「吾輩は猫である」は、漱石の最初の長編小説である。

注5 低徊趣味——漱石が示した文学観。物事を突き詰めないで余裕ある態度・気分で眺め味わい、詩的境地に浸ろうとする態度。

注6 トルストイ——1828生→1910没。ロシアの小説家・思想家。明治大正期の日本作家に影響を与え、中村武羅夫は「ア

ンナ・カレーニナ」を「本格小説」の手本として挙げてゐる。

注7 ドストエフスキー——1821生→1881没。ロシアの小説家。そのリアリズム文学によって、世界に大きな影響を与えた。

注8 フローベール——1821生→1880没。フランスの小説家。的確・精緻な表現によってリアリズム文学を確立した。

注9 菊池寛——1888生→1948没。小説家・劇作家。雑誌『文芸春秋』を創刊し、後に芥川賞・直木賞を制定した。

注10 コンデンサー——濃縮したり、凝縮したりするもの。

※本文中には、現代では使用されていない表現が用いられているが、原文を尊重し、原文通りの記載とした。

1

問一

傍線部A「私小説と、三人称小説、この二つのものは是非も、それに付随して起こった事」とあるが、それはどのようなことか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 私小説と三人称小説の是非の論争も、昨今の文壇に、著しく心境小説の傾向が増え、それを支持する筆者のような論者が出てきたことに伴うように起こってきた、ということ。
- ② 私小説と三人称小説の是非の論争も、本当の格式を保った、いわゆる小説らしい一人称小説である本格小説の強い主張に伴うように起こってきた、ということ。
- ③ 私小説と三人称小説の是非の論争も、描写する対象を如実に浮かばせるとともに、心持ちや人生観的感想を表わそうとする本格小説の主張に伴って起こってきた、ということ。
- ④ 私小説と三人称小説の是非の論争も、私小説と同じように一人称で語られる心境小説と、三人称で語られる本格小説の是非の論争に伴うように起こってきた、ということ。
- ⑤ 私小説と三人称小説の是非の論争が、三人称で語られるべき私小説や心境小説と、一人称で語られるべき本格小説の是非の論争に伴って起こってきた、ということ。

2

問二

傍線部B「もっと直接に、漱石先生自身が出て来ても、あれだけの苦笑哲学は出て来なかったであろうか」とは、どのようなことを述べているか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 作者夏目漱石が「吾輩は猫である」という小説中の人物として直接登場してきたとしても、苦笑的な風刺の思想が出てきたかどうかは不明である、ということ。
- ② 「猫」の飼い主「苦沙弥先生」が、もしも直接「吾輩」であつたとしても、苦笑的な風刺の思想は表現できただろうか、いやでしなかつただろう、ということ。
- ③ 「吾輩は猫である」において、もしも夏目漱石の真の「私」が直接に表現されていたとしても、あれだけ立派な苦笑的風刺の思想は表せなかつただろう、ということ。
- ④ 「吾輩は猫である」の主人公「猫」の言動が、もっと直接に作者夏目漱石らしくても、苦笑的な風刺の思想はおそらく出てこなかつたのだ、ということ。
- ⑤ 作者夏目漱石の「私」が「吾輩は猫である」という小説の中にもっと直接に表現されていたとしても、苦笑的な風刺の思想は出せなかつたのか、いや出せた、ということ。

3

問三 傍線部C「漸次「私」から、私を語る「心境」へと、論を進め

て行こう」とあるが、その「漸次」とはどのような意味か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① だんだんと
- ② しばらくは
- ③ こんどこそ
- ④ とびとびに
- ⑤ ひといきに

4

問四 傍線部D「その二者のツマラなさでは前者のツマラなさの方が、

むしろ罪が少なくはないか」とあるが、その「前者」に当たるものは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 私小説
- ② 生活
- ③ 心境小説
- ④ 私
- ⑤ 本格小説

5

問五 傍線部E「凡ゆる存在は尤もである」とは、どのような意味か。

最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 全存在の中でも、最高といえるような存在こそがあり得る、ということ。
- ② すべての存在は、それが存在する道理になっている、ということ。
- ③ あらゆる存在は、存在としての例外をも持つものだ、ということ。
- ④ いかなる存在も、まったく存在する通りのままではない、ということ。
- ⑤ どのような存在にも、存在することの前提があるものだ、ということ。

6

問六

傍線部F「真の意味の「私小説」は、同時に「心境小説」でなければならぬ」とあるが、結局「心境小説」とはどのようなものか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「作家凡庸主義」に基づいて、誰でもが作家となって書き残して死ぬべきもの。
- ② 作家が「私」を最も直接にさらけ出した、立脚地の確実な自叙伝や懺悔。
- ③ この地上に存在した一人の生存の、いとしくかなしい足跡を内容とする物語。
- ④ 革新的な社会観を持つ「私」の写実的な告白が、客観的に描かれているもの。
- ⑤ 自己の中にある本物の「私」の凝縮されたものが、しっかりと表されているもの。

7

問七

本文中の空欄

a

く

e

のそれぞれに当てはまる

語句は何か。その組み合わせとして最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|
| ① | a | もはや | b | 僅かに | c | もって |
| | d | 実は | e | すでに | | |
| ② | a | すでに | b | もはや | c | 僅かに |
| | d | もって | e | 実は | | |
| ③ | a | 実は | b | すでに | c | もはや |
| | d | 僅かに | e | もって | | |
| ④ | a | もって | b | 実は | c | すでに |
| | d | もはや | e | 僅かに | | |
| ⑤ | a | 僅かに | b | もって | c | 実は |
| | d | すでに | e | もはや | | |

問八

本文の内容の説明として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「他」を描きながらも「自」をその中に行きわたらせ得る偉大な作家もいるではあるが、トルストイなどの作品にしても結局は作り物に過ぎず、芸術としての間接感、技巧や凝り方の虚構感があって信用が置けないために、私はそれらが偉大なる通俗小説に過ぎない、という暴言をさえ吐いた。
- ② 心境を「如実に表現する」ためには、決して写実的な意味や、素材のままで表現するのではなく、歪みや過不足のない心境をよくコンデンス、つまり融和し、濾過し、集中し、攪拌し、そしてその結果できあがったものを渾然と再生させる必要がある。
- ③ 「作家凡庸主義」という考え方が、「如実に表現し得れば」という所に論拠を置けば成り立つても、「凡人でも」という点に至って瓦解してしまう理由は、「如実に表現し得れば」ということが容易ではないことが、古今東西いい古され、しかも今なお終わっていない問題だからである。
- ④ 私が「私小説」を散文芸術の根本、本道、真髄であると思う理由は、自分が自分の「私小説」を書いた場合、その作によって一番安心立命を感じる事ができ、他人が他人の「私小説」を書いた場合に、その真偽を問わずとも、最も直接に信頼を置いて読み得るからである。
- ⑤ 私が、昨今いう所の「私小説」というのは、一言にしてい

えば、作家が自分を最も直接にさらけ出した小説、というほどの意味だから、それはイヒ・ロマンの訳でなくて、むしろ別な「自叙伝」とか「告白」であり、心境の問題とあいまって、いわゆる芸術非芸術の境を成すものである。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

摂津国昆陽寺^{注1}といふ所に、七十ばかりなる法師の、一人出^いで来て、鐘つき堂のそばの、住持の家のありけるに、宿借りてとどまりにけり。二三日過ぎけれども外へ行かざりければ、主の住持、怪¹しみて、「いかなる人の、いづくへ行くぞ」と問ひければ、旅人の法師申すやう、「さして、いづくへまかるべしとも思ひ定めたこともなし。子にて候^{まう}ふ男、播磨国^{注2}しかじかといふ所に候²ふが、世の中もわびしからず、田地、所領などもあまた持ちて候²ふが、妻にて候²ふ女の心ばへ、けしからぬによりて、過ぐべくも覚え候²ふ間、うかれ出でて候²ふなり。然^{しか}るべく候²はば、これにて鐘などをもつきて参らせばや」と言ふ。この住持

A

と思ひて、とどめ置きたるほどに、初^{注3}、後夜、鐘などまごころにつきければ、「うれし」と思ふほどに、十日ばかり過ぎて、この法師、寢死^{ねじ}にさしすくみて有りければ、「あさまし」と思ひて、寺中ふれめぐらしければ、「よしなし法師、とどめおきて、寺中をけがしつるよ」と沙汰^{さた}しあひたるところに、紺³の直垂^{そり}、折烏帽子^{えぼし}着たる男の、従者^{えし}二三人ばかり具したるが、尋ね来て、「この寺に、もし老いたる法師などや、参りたることや」と言ひければ、「かく鐘楼のかたはらなる屋にこそ、法師の日ごろ有りつるが、この暁、死にて臥^ふせる」と答ふるに、この男寄りて、うち見て言ふやう、「この法師は、我が父にて候⁴ふ。親ながら老いひがみて、我がもとを逃げ出でて、これにて死に候⁴ひけり。親一人など養ふまじき身にても候⁴はぬに、心のけしからぬよりおこり候⁴ひて、不思議の死して候⁴ふ。今はいふかひなく候⁴へば、葬送^{つかまつ}仕^{つかまつ}り候⁴ふべし」とて、出でていぬ。

夕方になりて、乗馬の者を始めて、四五十人ばかり具し来てひしめきけれども、寺中はこの死人を忌みければ、坊どもたてて、人もさし出でぬ間に、はやこの僧は物にかきのせて、出でていぬ、と思ふほどに、夜明けてみれば、このつき鐘失せにけり。「不思議かな」と思ひて、葬送の松山を見れば、つき鐘は、そこに散々にうち割りて、はや取りて去^いにけり。あとに鐘のくだけ残りたりけり。

かの松原にて高念仏を申して、その紛れに鐘を割り取りて、死人を埋^うむよしをしたりける。ゆゆしきたばかりなり。

（『十訓抄』による）

注1 摂津国昆陽寺——今の兵庫県伊丹市にある寺。

注2 播磨国——今の兵庫県。

注3 初、後夜——初夜は夕方から夜中までの時間を言い、鐘は午後八時につく。後夜は夜半から夜明けまでの時間を言い、鐘は午前四時頃につく。

9

問一

傍線部1「いかなる人の、いくへ行くぞ」という問いかけに
対する答えからわかる内容として、適切なものはどれか。次の
①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① どこへ行くか決めている。
- ② 播磨国には住んでいない。
- ③ 子は財産がなく貧しい。
- ④ 子の妻の心掛けが良い。
- ⑤ 家の住み心地は良い。

10

問二

傍線部2「世の中」の意味として、最も適切なものはどれか。
次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① 夫婦の間柄
- ② 俗世間、娑婆しやば
- ③ 天下、国
- ④ 生活、暮らし
- ⑤ 現世、この世

11

問三

A

に入る言葉として、最も適切なものはどれか。次の
①～⑤の中から一つ選び、その番号マークせよ。

- ① さもありなん
- ② 思ひもよらぬ事なり
- ③ あるべからず
- ④ 追ひ出ださん
- ⑤ たばかりなるべし

12

問四

傍線部3「直垂」の読みとして、正しいものはどれか。次の
①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① ちよくすい
- ② すいかん
- ③ のうし
- ④ ちよくえ
- ⑤ ひたたれ

13

問五 傍線部4「親ながら老いひがみて」の解釈として、最も適切なものはどれか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① 親というものは、年のせいでいろいろひがみつぽくなっていて、
- ② 親なのだから、年老いてもひがまないで、
- ③ 親だけれども、年老いてひがんで、
- ④ 親全てが、年老いてもひがむというわけではないが、
- ⑤ 親らしくしていると思ったのに、年老いてひがんだから、

14

問六 傍線部5「死人を忌みければ」の説明として、最も適切なものはどれか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① ここは寺なので、死人は丁寧に吊ってあげなくてはならないので、という意味。
- ② 死んだ人に触るとけがれると考えられていたので、という意味。
- ③ 寺の中で死んだということに特別な意味があると言えるので、という意味。
- ④ 死んだ人に罪はなく、残された子の方に問題があるので、という意味。
- ⑤ 何かがあったにしても、死人に口なしということがあるので、という意味。

15

問七 傍線部6「ゆゆしきたばかり」の具体的な説明として、最も適切なものはどれか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① 法師が鐘つき堂のそばの住職の家に泊めてもらったこと。
- ② 法師が初夜、後夜の鐘を一生懸命に撞いていたこと。
- ③ 住職が法師を寺にとどめ置くことにしたこと。
- ④ 法師が寺の中で死んでしまったこと。
- ⑤ 法師の息子が父親の葬儀を言ったこと。

次の文章を読んで後の設問に答えなさい。なお、設問との関係などで訓点を省略した箇所がある。また、設問中に問題文を引いた箇所の訓点もすべて省いてある。

明主之所^ノ導^{よりテ}制^{スル}其^{ソノ}臣^ヲ者、二柄^a而已^ニ矣。二柄^ト者、刑^ハ徳也^{なり}。何^{ナニ}謂^フ刑^ト徳^ト。曰^{イハク}、殺^{さつ}戮^{りく}之^{コレ}謂^{ヒト}刑^ト、慶^{注3}賞^ヲ之^レ謂^フ徳^ト。為^{タル}人^ニ臣^一者、畏^{おそレテ}誅^{ちゆう}罰^{ばつ}而^{シテ}利^{トス}慶^ヲ賞^ヲ。故^ニ人^ハ主^ハ自^{みづか}用^{フレバ}其^ノ刑^ト徳^ヲ、則^{すなはチ}群^レ臣^ニ畏^{レテ}其^ノ威^ヲ而^{シテ}帰^{セン}其^ノ A 矣^ニ。故^{すなはチ}世^ノ之^ノ姦^{かん}臣^{しんハ}則^チ不^レ然^{しかラ}。所^ハ惡^{にくム}則^チ能^{ヨク}得^テ之^ヲ其^ノ主^{ヨリ}而^{シテ}罪^シ之^ヲ、所^ハ愛^{スル}則^チ能^ケ得^テ之^ヲ其^ノ主^{ヨリ}而^{シテ}賞^ス之^ヲ。今^{イマ}人^ニ主^ハ非^レ使^{シテ}賞^ヲ罰^ヲ之^ノ威^ヲ利^ヲ出^デ於^ニ己^ニ也^ニ、聴^{キテ}其^ノ臣^ニ而^{シテ}行^{ハバ}其^ノ賞^ヲ罰^ヲ、則^チ一^ニ国^ノ之^ノ人^ニ皆^レ畏^{レテ}其^ノ臣^ヲ而^{シテ}易^{注5}其^ノ君^ヲ、帰^{シテ}其^ノ臣^ニ而^{シテ}去^{ラン}其^ノ君^ヲ矣^ニ。此^{コレ}人^ノ主^ノ失^フ刑^ヲ徳^ヲ之^ノ患^{うれヒ}也^ニ。

(『韓非子』による)

注1 導——よる、したがう。

注2 殺戮——死刑。

注3 慶賞——恩賞。

注4 故——ところが、逆に。ここでは逆接的なつながりを示す。

注5 易——軽視する。

16 問一 傍線部 a の「而已矣」の読みとして最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① せん
- ② かな
- ③ なり
- ④ のみ
- ⑤ やむ

17 問二 空欄 A に当てはまる語として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 愛
- ② 刑
- ③ 利
- ④ 柄
- ⑤ 威

18 問三 傍線部 b の「之」が指しているものは何か。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 刑罰を与える権限
- ② 国家を治める制度
- ③ 立場を越えた正義
- ④ 恩賞を受ける権利
- ⑤ 臣下を愛する徳行

19

問四 傍線部cの「人主非使賞罰之威利出於己也」の書き下し文として最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 人主の賞罰と威利は己をして出ださしむるに非ず
- ② 人主賞罰之れ威利に於いて己に出づる使に非ず
- ③ 人主をして賞罰之きて威利たるは己よりも出でしむるは非たり
- ④ 人主の使ひに非ずして賞罰の威利は己に出づ
- ⑤ 人主賞罰の威利をして己より出ださしむるに非ず

20

問五 傍線部dの「帰」と同じ意味で「帰」が使われている熟語はどれか。最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 帰省
- ② 帰納
- ③ 帰結
- ④ 帰属
- ⑤ 帰還

四

次の各設問に答えなさい。

21

問一

田山花袋が一九〇七（明治四〇）年に発表して評判となり、その後の日本自然主義文学に多大な影響を与えた、告白的な暴露小説はどれか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「一兵卒の銃殺」
- ② 「田舎教師」
- ③ 「少女病」
- ④ 「百夜」
- ⑤ 「蒲団」

22

問二

一九一〇（明治四三）年に発表されて永井荷風に認められ、耽美的作風に新しい境地を開いた谷崎潤一郎の小説はどれか。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 「細雪」
- ② 「刺青」
- ③ 「春琴抄」
- ④ 「蓼喰ふ虫」
- ⑤ 「痴人の愛」

23

問三

一九五二（昭和二七）年に、最初の詩集「三十億光年の孤独」で脚光を浴び、以後「六十二のソネット」などの詩作のほか、劇作や作詞など多方面で活躍した詩人は誰か。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 茨木のり子
- ② 大岡信
- ③ 谷川俊太郎
- ④ 寺山修司
- ⑤ 萩原朔太郎

24

問四

小説「飼育」によって、大学在学中の一九五八（昭和二三）年度の芥川龍之介賞を受け、一九九四（平成六）年にはノーベル文学賞を受けた、日本を代表する作家は誰か。次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 安部公房
- ② 石原慎太郎
- ③ 遠藤周作
- ④ 大江健三郎
- ⑤ 川端康成

25

問五 太平洋戦争後の沖縄を舞台とする小説「宝島」によって、

二〇一八（平成三〇）年度の直木三十五賞を受賞した作家は誰か。

次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 池井戸潤

② 恩田陸

③ 真藤順丈

④ 馳星周

⑤ 米澤穂信

26

問六 六歌仙として知られる歌人を、次の①～⑤の中から一つ選

び、その番号をマークしなさい。

① 小野小町

② 清少納言

③ 紫式部

④ 藤原道綱母

⑤ 和泉式部

27

問七 「行く河の流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。」は、

ある古典の冒頭の一節である。この作品名としてふさわしいものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 「徒然草」

② 「蜻蛉日記」

③ 「方丈記」

④ 「枕草子」

⑤ 「更級日記」

28

問八 近松門左衛門の作品を、次の①～⑤の中から一つ選び、そ

の番号をマークしなさい。

① 「好色五人女」

② 「南総里見八犬伝」

③ 「東海道中膝栗毛」

④ 「雨月物語」

⑤ 「曾根崎心中」

29

問九 孔子の思想を受け継ぎ、王道政治とその根拠としての性善説を

説いた戦国時代の思想家を、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 老子

② 孟子

③ 墨子

④ 韓非

⑤ 顔回

30

問十 「荀子」を出典として、弟子がよく学んで師匠よりも優れた人物になることを表した故事成語を、次の①～⑤の中から一つ

選び、その番号をマークしなさい。

① 切磋琢磨

② 助長

③ 温故知新

④ 螢雪の功

⑤ 出藍の誉れ

(以上で問題は終わりです。解答番号 31 以降は使用しません。)